

東大町子ども会

昭和四十九年度 五年女児

わたしたち東大町子ども会は、緑町などにくらべて、話し合いの時などはあまり活発だとは言えません。町子ども会があると、わたしたちは体育館の玄関側に集まりますが、人数の割に発言する人があまりいません。発言する人は限られていて、大部分が高学年の男子の人たちです。となりのステージ側では緑町の子ども会が開かれているのですが、かえっておこの方の声が大きくひびいて、こちらの方はひっそりしているくらいです。

司会の松井君が大きな声でがんばって話すのですが、何しろ人数が多いので声がすみまでとどきません。だれかが発言すると、低学年や中学年の人たちは、どんな意見かも聞きもしないで

「賛成」とか

「そうですね。」などと言っては先生に注意されます。

学級会や各委員会にくらべると、町子ども会はみんな

重要に考えていないのではないのでしょうか。たしかに、話し合う内容がすでに学級会や代表委員会などで話し合われている場合が多いということは言えると思います。しかし、公園での遊び方や、危険な場所の点検、登校時の様子など、町子ども会で話し合うことはいろいろあると思います。

町子ども会が活発に行われぬ原因の一つとして、特に東大町などはそうなのですが、人数が多すぎるということもあると思います。

それでわたしは、話し合いは三年以上にするとか、東大町をさらに二つに分けるとか、人数を少なくしてはどうかと考えています。

東大町子ども会は、話し合いでは他の子ども会にリードされているかもしれませんが、スポーツやチームワークの点では決して他の町に負けてはいません。

その一つの例が自治会対抗大運動会です。まだ一位になったことはありませんが、二年続けて第二位です。これは、おとうさん、おかあさんたちとわたしたちのチームワ

ークがいいからだと思います。バレーボール大会の時も、東大町の応援は人数も多いし一番熱心でした。わたしたちの応援があったから、東大町のおとうさん、おかあさんチームが初優勝できたのだと思います。

このように東大町の人たちは、おとなも子どももいざとなると大変よくまとまります。これをスポーツの時だけでなく、話し合いや日常生活の時にも発揮させていきたいと思います。そうして、町子ども会を通して、わたしたちの町東大町を、わたしたちの手で明るく住みよい町にしていきたいと思います。